

# しんきんUSバランス・プラスゴールド(1年決算型)

## 愛称:米国キラリ

追加型投信/海外/資産複合

### 交付運用報告書

第2期(決算日2023年2月27日)

作成対象期間(2022年2月26日~2023年2月27日)

第2期末(2023年2月27日)	
基準価額	9,302円
純資産総額	362百万円
第2期	
騰落率	△6.2%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しています。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。弊社ホームページの「ファンド各種資料」において運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される場合は、販売会社までお問い合わせください。

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきんUSバランス・プラスゴールド(1年決算型)」(愛称:米国キラリ)は2023年2月27日に第2期の決算を行いました。

当ファンドは、海外の複数の資産(債券・株式・金)に分散投資をすることにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行っています。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

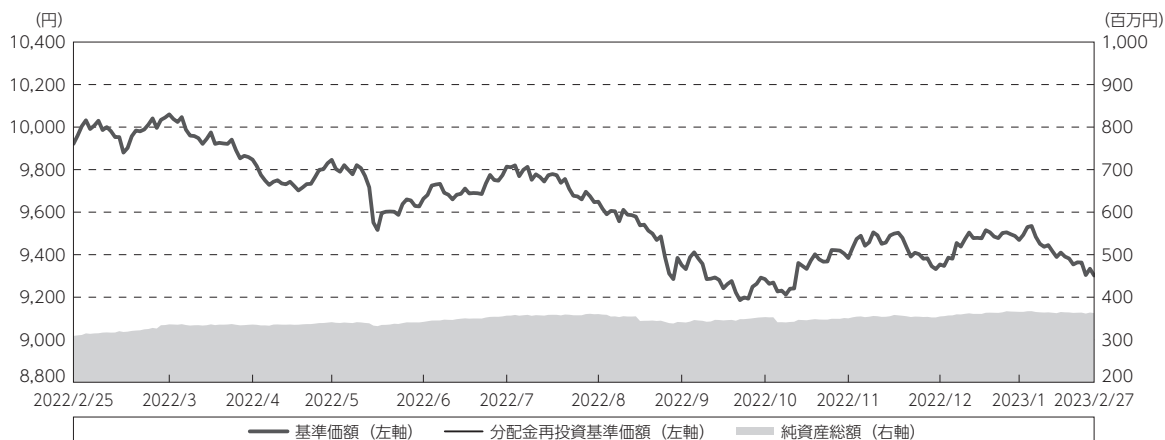
<コールセンター> ☎ 0120-781812

(土日、休日を除く) 携帯電話からは03-5524-8181  
9:00~17:00

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2022年2月26日～2023年2月27日)



期首：9,921円

期末：9,302円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 6.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年2月25日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、マザーファンドの受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(米国債券・米国株式・金)に分散投資を行うことで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行っています。

当期は、ファンドの基準価額に対してドル高円安がプラスに寄与しましたが、米国金利が上昇(債券価格は下落)したことを主因に基準価額は下落しました。

各マザーファンドの主な変動要因は、次のとおりです。

## 米国債券

## ●しんきん米国債券ETFマザーファンド

<上昇要因>

- ・ドル高円安が進んだこと。

<下落要因>

- ・米国の強い労働市場とインフレ高進を背景に、米連邦準備制度理事会（F R B）が大幅な利上げなどの積極的な金融引締めを進めたことで、米国金利が上昇（債券価格は下落）したこと。

米国株式

●しんきんS & P 5 0 0インデックスマザーファンド

<上昇要因>

- ・ドル高円安が進んだこと。
- ・企業決算で総じて底堅い業績が示されたこと。

<下落要因>

- ・F R Bが積極的な金融引締めを進めたこと。
- ・米国金利が大幅に上昇したこと。
- ・ウクライナ情勢の緊迫化により、地政学リスクと世界経済の先行き懸念が高まったこと。

金

●しんきんゴールドE T Fマザーファンド

<上昇要因>

- ・円安が進んだこと。
- ・ウクライナ情勢の緊迫化により、金を選好されたこと。
- ・中国などの中央銀行が金の保有を増やしたこと。

<下落要因>

- ・F R Bが積極的な金融引締めを進め、米国金利の上昇とドル高が進行したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2022年2月26日～2023年2月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	87	0.907	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 41)	(0.420)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 44)	(0.453)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.041	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
( 投 資 信 託 証 券 )	( 4)	(0.041)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
( 投 資 信 託 証 券 )	( 0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	22	0.229	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 20)	(0.210)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
( 監 査 費 用 )	( 1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	( 1)	(0.013)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	113	1.177	
期中の平均基準価額は、9,640円です。			

(注) 期中の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

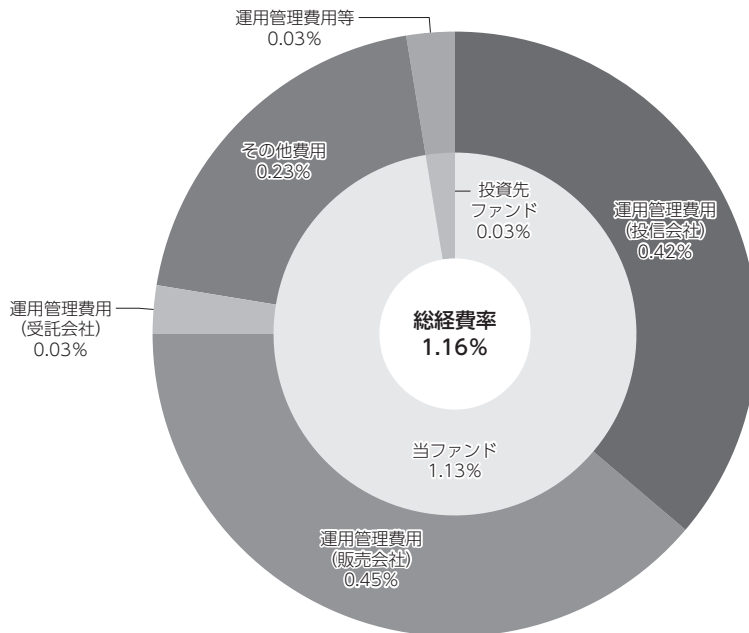
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.16%です。



(単位: %)

総経費率(①+②)	1.16
①当ファンドの費用の比率	1.13
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	0.03

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用等の他に費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2018年2月26日～2023年2月27日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 当ファンドの設定日は2021年6月14日です。

	2021年6月14日 設定日	2022年2月25日 決算日	2023年2月27日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,921	9,302
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.8	△ 6.2
純資産総額 (百万円)	18	308	362

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しています。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年2月25日の騰落率は設定当初との比較です。

(注) 当ファンドは、海外の複数の資産(債券・株式・金)に分散投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または運動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

## 投資環境

(2022年2月26日～2023年2月27日)

## (米国債券市況)

当期の米国国債市場は、米10年債利回りが上昇（価格は下落）しました。

期首、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受けた世界経済の先行き懸念により、米10年債利回りは1.9%程度から1.6%台に低下する局面はありましたが、米消費者物価指数（CPI）が上昇率を拡大し、FRBが積極的な金融引締めを進めたことで、2022年6月中旬にかけて同利回りは上昇基調で推移し、一時3.5%程度まで上昇しました。FRBは米連邦公開市場委員会（FOMC）で、3月に0.25%、5月に0.50%、6月に0.75%の利上げを行い、5月には量的引締め（保有資産の縮小）の開始も決定しました。

6月中旬から8月初めにかけて、米景気の減速懸念などを背景にFRBの利上げペースの減速観測が高まったことで、米10年債利回りは低下基調で推移し、一時2.5%程度まで低下しました。しかし、米雇用指標や米インフレ指標が強いインフレ圧力を示唆する結果となる中、FRBは7月、9月、11月のFOMCで0.75%の大幅利上げを続けて行い、FOMC参加者が政策金利のターミナルレート（最終到達点）の見通しを大幅に引き上げたことなどから、8月初めから11月上旬にかけて同利回りは再び上昇基調で推移し、10月下旬には一時4.3%台まで上昇しました。

11月に発表された米CPIが市場予想を下回り、インフレ鈍化期待が高まったことや、FRBの利上げペースの減速観測が高まったことから、米10年債利回りは低下に転じ、12月中旬には3.4%程度まで低下しました。12月のFOMCで、FRBが利上げ幅を0.50%に縮小した一方で利上げ継続姿勢を強調したことや、日銀が金融政策決定会合で10年国債利回りの許容変動幅を拡大し、世界的な金利上昇を誘発したことを受け、年末に向けて米10年債利回りは3.9%程度まで上昇しましたが、2023年1月に発表された米雇用統計で平均賃金の伸びが鈍化したことや米CPIでインフレの鈍化が確認されたことなどから、1月中旬に同利回りは3.3%台まで低下しました。

その後、米10年債利回りは方向感に乏しく推移した後、2月に発表された米雇用統計や米CPIなどにより、底堅い米経済と強いインフレ圧力が示唆されたことで、FRBによる金融引締め長期化観測が広がったことなどから、期末にかけて同利回りは上昇基調で推移し、3.9%程度で期末を迎えました。FRBは2月初めのFOMCで利上げ幅を0.25%に縮小し、政策金利のフェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標は期末時点で4.50～4.75%となっています。

## (米国株式市況)

当期の米国株式市場は、全体として下落しました。

期首から2022年3月中旬にかけて、ウクライナ情勢の緊迫化を受けて地政学リスクや世界経済の先行き懸念が高まったことなどにより、株価は下落しましたが、米景気に対するパウエルFRB議長の強気な見通しが好感されたことや、ロシアとウクライナの停戦協議への期待を背景に、3月末にかけて期首の水準を超えて上昇しました。

4月から6月中旬にかけて、インフレ高進によりFRBの金融引締めに対する懸念が高まったことや米国金利の大幅な上昇、企業業績に対する懸念などを受け、下落基調で推移しました。その後、FRBの利上げペースの減速観測が高まったことや、企業決算で総じて底堅い業績が示されたことなどにより、8月中旬にかけて一旦上昇しましたが、米雇用指標や米インフレ指標が強いインフレ圧力を示唆する結果となる中、FRBが積極的な金融引締め姿勢を示し、米国金利が大幅に上昇したことで、10月中旬にかけて再び下落基調で推移しました。

10月中旬以降、引き続き総じて底堅い企業業績が示される中、ＦＲＢの利上げペースの減速観測が高まったことや、11月に発表された米ＣＰＩが市場予想を下回り、インフレ鈍化期待が高まったことなどから、12月にかけて上昇しました。12月中旬のＦＯＭＣでＦＲＢが利上げ継続姿勢を強調したことなどから、一旦下落しましたが、2023年1月に発表された米雇用統計で平均賃金の伸びが鈍化したことや米ＣＰＩでインフレの鈍化が確認されたことで、ＦＲＢの早期利上げ停止観測などが高まり、2月初めにかけて再び上昇しました。その後、2月に発表された米雇用統計や米ＣＰＩなどを受け、ＦＲＢによる金融引締め長期化観測が広がったことなどから、期末にかけて下落しました。

### (金市況)

当期の金相場は、下落しました。

期首から2022年3月上旬にかけて、ウクライナ情勢の緊迫化などを受け、金が選好されたことから、金相場は大きく上昇しました。しかし、ＦＲＢが積極的な金融引締めを進め、米国金利の上昇とドル高が進行したことなどを受け、ドル建てで取引される金の割高感が高まったことや金利を生まない資産である金が売られたことから、11月初めにかけて金相場は下落基調で推移しました。

11月上旬以降、ＦＲＢの利上げペースの減速観測が高まったことなどを受け、米国金利の低下とドル安が進行したことや、中国などの中央銀行による金の保有を増やす動きなどから、2023年2月初めにかけて金相場は大きく上昇し、一時、期首の水準を上回りました。しかし、2月に発表された米雇用統計や米ＣＰＩなどを受け、ＦＲＢによる金融引締め長期化観測が広がったことなどから、期末にかけて再び下落しました。

### (為替市況)

当期の為替（ドル円）相場は、ドル高円安となりました。

米国において、インフレ抑制のためにＦＲＢが積極的な金融引締めを進め、米国金利が大幅に上昇する一方、日本においては、日銀があらかじめ指定した利回りで国債を無制限に買い入れる指値オペを実施するなど、金融緩和姿勢を堅持し、金利の上昇を抑制したことを受け、日米の金融政策の方向性の違いが意識されたことや日米金利差が拡大したことにより、期首から2022年10月にかけてドル高円安基調で推移し、ドル円は115円程度から150円程度まで大幅に上昇しました。

10月下旬に一時152円近辺まで上昇しましたが、日本政府・日銀による円買い・ドル売りの為替介入が実施され、150円を下回る水準まで下落し、その後も、ＦＲＢの利上げペースの減速観測が高まったことなどから、ドル安円高基調で推移しました。12月の金融政策決定会合で日銀が10年国債利回りの許容変動幅の拡大を決定したことで、ドル安円高の動きが強まり、2023年1月中旬に一時127円台まで下落しました。その後、2月に発表された米雇用統計や米ＣＰＩなどを受け、ＦＲＢによる金融引締め長期化観測が広がったことなどから、期末にかけてドル高円安が進行し、136円台まで上昇しました。



## 当ファンドのポートフォリオ

(2022年2月26日～2023年2月27日)

当ファンドでは、親投資信託である「しんきん米国債券ETFマザーファンド」(米国債券)、「しんきんS&P500インデックスマザーファンド」(米国株式)、「しんきんゴールドETFマザーファンド」(金)の受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(米国債券・米国株式・金)に分散投資を行いました。

当ファンドは、米国債券の投資比率を「60%程度」としつつ、ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率をそれぞれ「2.5～20%程度」の範囲内で調整します。当期は、2022年3月、4月、6月に、米国債券、米国株式、金の変動リスクの上昇などを受け、基準価額の変動リスクが大きくなったことから、米国株式と金への投資比率を引き下げました。その後、基準価額の変動リスクが大きい状態が続いたことから、米国株式と金への投資比率を低位で維持しました。

また、米国債券については、原則として為替ヘッジを行っています。

当期の各月末および決算日(2023年2月27日)の各資産(該当するマザーファンド)への投資比率は、下表のとおりです。

		米国債券	米国株式	金
2022年	2月	59.8%	17.4%	16.0%
	3月	59.6%	11.3%	11.3%
	4月	60.1%	8.7%	8.8%
	5月	60.6%	8.7%	8.5%
	6月	60.5%	2.8%	2.8%
	7月	59.1%	2.8%	2.7%
	8月	59.9%	2.8%	2.8%
	9月	60.2%	2.8%	2.9%
	10月	61.1%	3.1%	3.0%
	11月	60.2%	2.9%	2.9%
	12月	59.5%	2.8%	2.8%
	2023年	1月	60.1%	2.8%
2月		60.7%	2.9%	2.9%

各マザーファンドの運用経過は、次のとおりです。

## 米国債券

## ●しんきん米国債券ETFマザーファンド

信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

## 米国株式

### ●しんきんS & P 500インデックスマザーファンド

S & P 500 指数（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目指し、上場投資信託である「i シェアーズ・コア S & P 500 E T F」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

## 金

### ●しんきんゴールド E T F マザーファンド

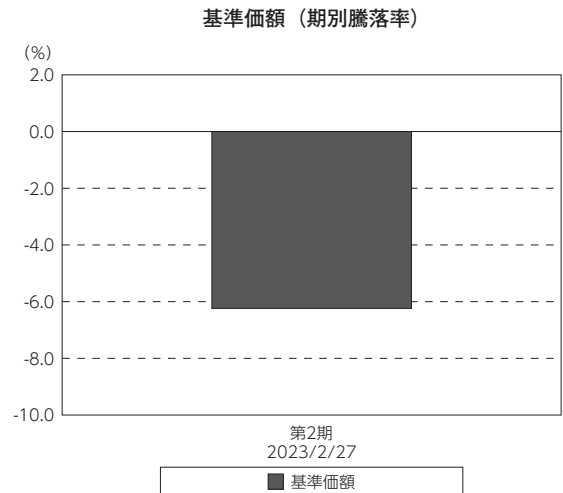
金地金価格への連動と信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「i シェアーズ ゴールド・トラスト」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年2月26日～2023年2月27日)

当ファンドは、海外の複数の資産（米国債券・米国株式・金）に分散投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

**分配金**

(2022年2月26日～2023年2月27日)

当期の分配金については、経費控除後の配当等収益や期末の基準価額水準等を勘案して、見送りとしました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

**分配原資の内訳**

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 2 期
	2022年2月26日～ 2023年2月27日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	53

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

引き続き運用の基本方針に従い、主として親投資信託である「しんきん米国債券ETFマザーファンド」(米国債券)、「しんきんS & P 500インデックスマザーファンド」(米国株式)、「しんきんゴールドETFマザーファンド」(金)の受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(米国債券・米国株式・金)に分散投資を行います。

各資産への投資比率は、米国債券の投資比率を「60%程度」としつつ、ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率をそれぞれ「2.5~20%程度」の範囲内で調整します。米国株式と金の投資比率は、ほぼ同じ比率とします。

なお、米国債券については、原則として為替ヘッジを行います。

各マザーファンドの運用方針は、次のとおりです。

### 米国債券

#### ●しんきん米国債券ETFマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF」へ投資することで、実質的に米国の債券に投資を行い、信託財産の成長を目指します。

### 米国株式

#### ●しんきんS & P 500インデックスマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ・コア S & P 500ETF」へ投資することで、実質的に米国の株式に投資を行い、S & P 500指数(配当込み、円換算ベース)に連動することを目指します。

### 金

#### ●しんきんゴールドETFマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」へ投資することで、金地金価格への連動と信託財産の成長を目指します。

## お知らせ

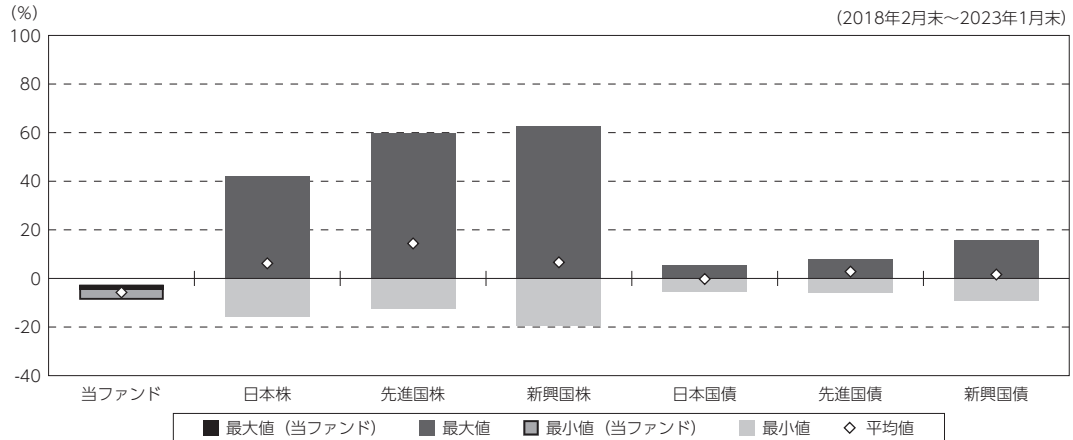
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信/海外/資産複合		
信託期間	無期限		
運用方針	①主として各マザーファンドの受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産（債券・株式・金）に分散投資を行います。		
	②各マザーファンドの受益証券への投資比率は、以下の資産配分比率を目指します。		
	資産	マザーファンド	資産配分比率
	米国債券	しんきん米国債券ETFマザーファンド	60%程度
	米国株式	しんきんS & P 500インデックスマザーファンド	2.5%~20%程度
金	しんきんゴールドETFマザーファンド	2.5%~20%程度	
	③ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率を上記の資産配分比率の範囲内で調整し、短期金融資産を組み入れます。(米国株式と金の資産配分は、ほぼ同じ比率とします。)		
	④しんきん米国債券ETFマザーファンドについては、原則として為替ヘッジを行います。		
	⑤資金動向および市況動向等に急激な変化が生じたとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができないことがあります。		
主要投資対象	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、短期金融資産にも投資を行います。		
運用方法	海外の複数の資産（債券・株式・金）に分散投資をすることにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。		
分配方針	年1回の決算日に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。		
	①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。		

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	△ 2.5	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△ 8.8	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 9.4
平均値	△ 5.8	6.2	14.4	6.6	△ 0.2	2.8	1.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年2月から2023年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2022年6月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、21ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2023年2月27日現在)

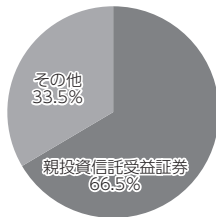
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
しんきん米国債券ETFマザーファンド	60.7
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	2.9
しんきんゴールドETFマザーファンド	2.9
組入銘柄数	3銘柄

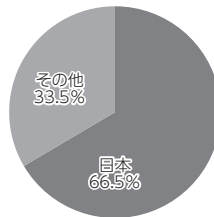
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

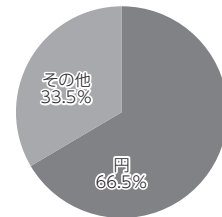
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

(注) その他は、日本円による現金、コール・ローン等を示します。

## 純資産等

項目	第2期末
	2023年2月27日
純資産総額	362,702,796円
受益権総口数	389,898,943口
1万口当たり基準価額	9,302円

(注) 期中における追加設定元本額は112,620,334円、同解約元本額は34,154,635円です。

## 組入上位ファンドの概要

## しんきん米国債券ETFマザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2022年2月26日～2023年2月27日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2022年2月26日～2023年2月27日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	3 (3)	0.031 (0.031)
(b) 有価証券取引税 (投資信託証券)	0 (0)	0.000 (0.000)
(c) その他費用 (保管費用)	20 (20)	0.189 (0.186)
(その他)	(0)	(0.003)
合計	23	0.220

期中の平均基準価額は、10,826円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## 【組入上位銘柄】

(2023年2月27日現在)

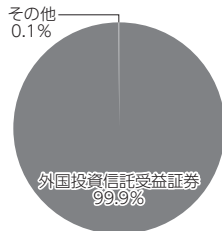
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	99.9%
	組入銘柄数		1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

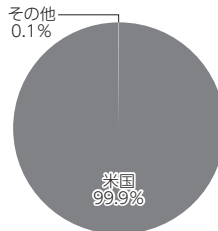
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

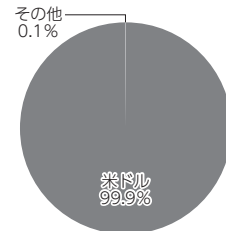
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

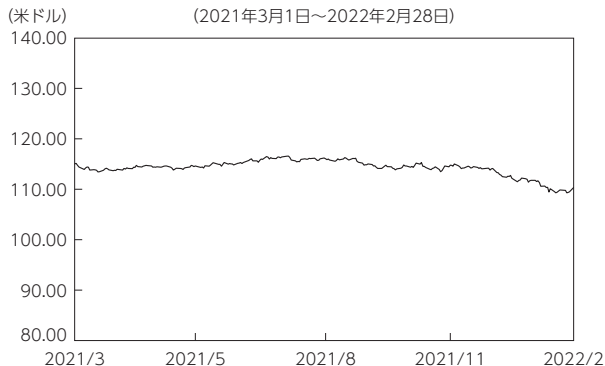


<ご参考> iShares Core U.S. Aggregate Bond ETF

※ BlackRock Inc.作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

【1口当たり純資産価額の推移】

(2021年3月1日～2022年2月28日)



【費用比率】

(2021年3月1日～2022年2月28日)

項 目	比 率
エクス Pens レシオ	0.03 %

(注) エクス Pens レシオは、当期間中の平均資産残高に対する運用その他の経費の比率を表示しています。

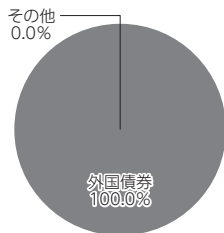
【組入上位10銘柄】

(2022年2月28日現在)

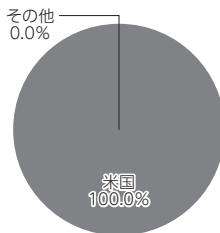
	銘 柄 名	利 率	満 期 日	比 率
		%		%
1	UMBS 30YR TBA(REG A)	2.50	2022/3/14	0.9
2	TREASURY NOTE	0.38	2026/1/31	0.8
3	TREASURY NOTE	0.13	2023/7/31	0.8
4	TREASURY BOND	1.88	2051/2/15	0.7
5	UMBS 30YR TBA(REG A)	2.00	2022/3/14	0.7
6	TREASURY NOTE	0.25	2023/9/30	0.6
7	GNMA2 30YR TBA(REG C)	2.00	2022/3/21	0.6
8	TREASURY BOND (20LD)	2.00	2051/8/15	0.6
9	TREASURY NOTE	1.50	2026/8/15	0.6
10	UMBS 15YR TBA(REG B)	1.50	2022/3/17	0.6
	組入銘柄数		10,052銘柄	

※ マネー・マーケット・ファンドを除いて表示しています。

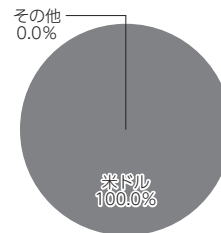
【資産別配分】



【国別配分】



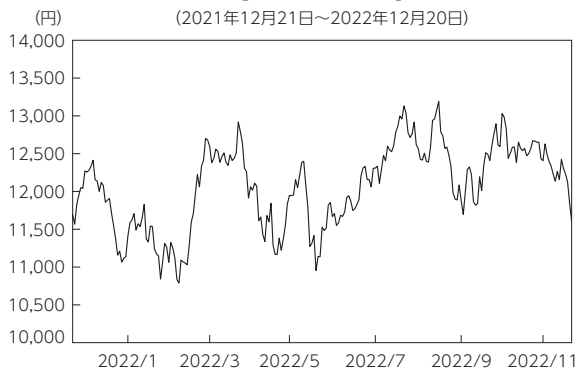
【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

## しんきんS &amp; P 500 インデックスマザーファンド

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2021年12月21日～2022年12月20日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 投 資 信 託 証 券 )	2 (2)	0.014 (0.014)
(b) 有 価 証 券 取 引 税 ( 投 資 信 託 証 券 )	0 (0)	0.000 (0.000)
(c) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( そ の 他 )	2 (2) (0)	0.016 (0.016) (0.000)
合 計	4	0.030

期中の平均基準価額は、12,113円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## 【組入上位銘柄】

(2022年12月20日現在)

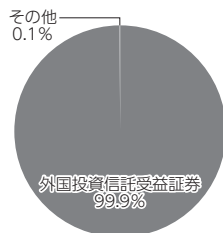
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
1	ISHARES CORE S&P 500 ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	99.9%
	組入銘柄数		1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

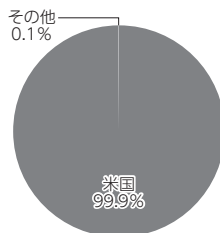
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

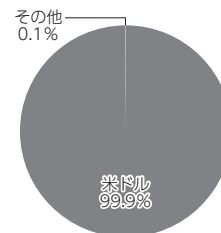
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

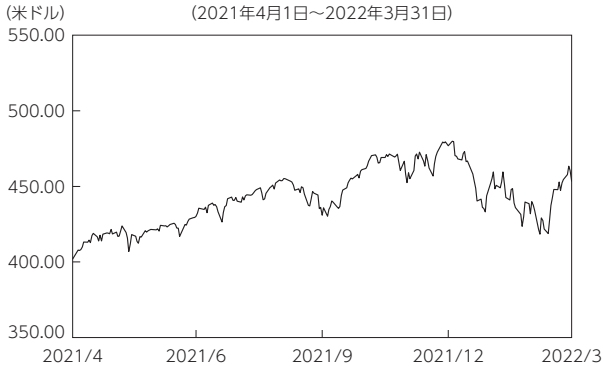
※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<ご参考> iShares Core S&P 500 ETF

※ BlackRock Inc.作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

【1口当たり純資産価額の推移】

(2021年4月1日～2022年3月31日)



【費用比率】

(2021年4月1日～2022年3月31日)

項 目	比 率
エクス Pens レシオ	0.03 %

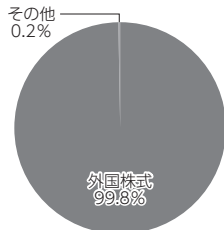
(注) エクス Pens レシオは、当期間中の平均資産残高に対する運用その他の経費の比率を表示しています。

【組入上位10銘柄】

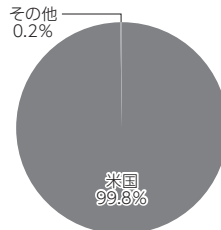
(2022年3月31日現在)

銘 柄 名	比 率
1 APPLE INC	7.1 %
2 MICROSOFT CORP	6.0
3 AMAZON COM INC	3.7
4 TESLA INC	2.4
5 ALPHABET INC CLASS A	2.2
6 ALPHABET INC CLASS C	2.0
7 NVIDIA CORP	1.8
8 BERKSHIRE HATHAWAY INC CLASS B	1.7
9 META PLATFORMS INC CLASS A	1.3
10 UNITEDHEALTH GROUP INC	1.3
組入銘柄数	506銘柄

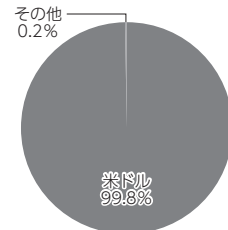
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

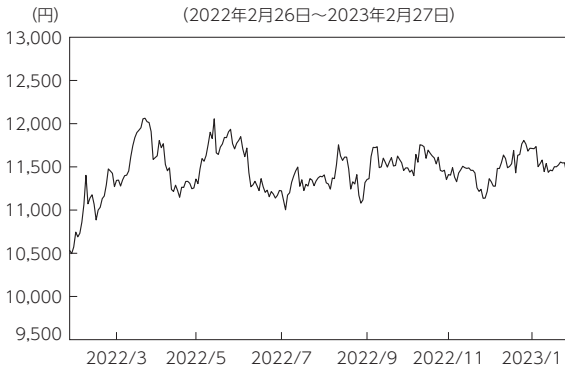


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

## しんきんゴールドETFマザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2022年2月26日～2023年2月27日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2022年2月26日～2023年2月27日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 投 資 信 託 証 券 )	46 ( 46 )	0.401 (0.401)
(b) 有 価 証 券 取 引 税 ( 投 資 信 託 証 券 )	0 ( 0 )	0.004 (0.004)
(c) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 )	205 ( 201 )	1.802 (1.771)
( そ の 他 )	( 4 )	(0.031)
合 計	251	2.207

期中の平均基準価額は、11,371円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

## 【組入上位銘柄】

(2023年2月27日現在)

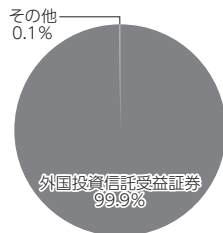
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
1	ISHARES GOLD TRUST	投資信託受益証券	米ドル	米国	99.9%
	組入銘柄数		1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

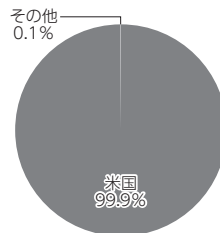
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

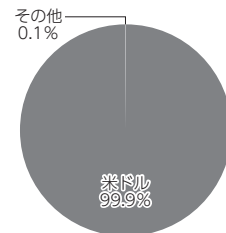
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しています。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

＜ご参考＞ iShares Gold Trust

※BlackRock Inc.のホームページ掲載データを基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

【1口当たり純資産価額の推移】

(2022年1月1日～2022年12月31日)



【費用比率】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

項 目	比 率
スポンサー費用	0.25%

(注) スポンサー費用とは、ファンド管理に掛かる費用をいいます。

### ＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

#### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

#### ○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

#### ○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

#### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

#### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。